

1. 研究主題（令和8、9年度 墨田区教育委員会 研究協力校）

「生徒の非認知能力の育成」

— 生徒が『主語』の主体的な活動を通して —

2. 研究主題設定の理由

次期学習指導要領では、少子化による生産年齢人口の減少、AI技術等の先端技術が高度に発達する時代で生きる子供たちのために次のように学びを進めていく必要があると述べている。

基本的な考え方を、「**自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の作り手の育成**」としている。（R7.9.25.教育課程特別部会論点整理より）

そのために、子供一人一人の能力の最大化、子供たちの主体的な学びの支援・伴走への教師の役割の転換が求められる。

職員は、「**生徒が『主語』の主体的な活動をさせること**」・生徒は、「**仲間とともに自身の非認知能力を育てること**」を意識する。こうした意識を踏まえ、これからの時代をよりよく生きる（幸福に生きる）生徒を育成するため、本研究主題を設定する。

3. 非認知能力とは

非認知能力（⇔認知能力（テスト・IQ））とは、テストでは測れない“人としての力”の総称である。以下のような力が含まれる。

主体性（自分で考え、判断し行動し、責任をもつ）・**意欲**（やってみようと自ら動き出す力）・**自制心**（感情をコントロールし、行動を調整する力）・**協調性**（相手の立場を理解し、協力して取り組む力）・**粘り強さ**（困難にぶつかってもあきらめずに続ける力）・**計画性**（見通しをもち、時間や行動を管理する力）・**自己肯定感**（自分の価値を認め、自信をもつ力）
コミュニケーション力（自分の考えを伝え、相手の話を理解する力）

4. 学校での研究の進め方（令和8年度（1年目））

・ 職員・生徒への意識付け（先行研究・書籍などの周知・講師講演・授業実践の共有・生徒へのアンケートなど）

5. 家庭へのお願い（学校と家庭が同じ方向を向くことで、生徒の力は大きく伸びます。）

- ・ 結果より“**過程**”を認める声かけを（努力・工夫・継続を評価）
- ・ **任せる**領域を少しずつ増やす（時間管理・持ち物管理など）
- ・ 失敗を否定しない（「**次はどうする？**」と前向きな対話を）
- ・ 家庭での**対話**を大切に（気持ちや考えを言葉にする練習に）
- ・ **挑戦**の機会を応援する（検定・部活動・地域活動など）